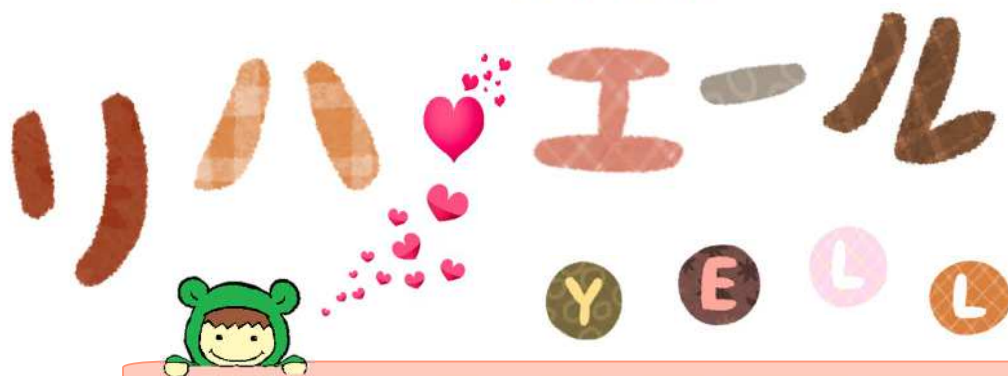




2
2022

第25号

電動車椅子講習会のお知らせ

当センターでは毎年、京都府警察中京警察署や電動車いす安全普及協会のご協力の下、電動車椅子講習会を開催しています。

電動車椅子による交通事故防止のため、交通ルールや事故防止の注意点、電動車椅子の種類や正しい操作方法についての講習を受けていただいた後、センターの体育館に設置したスロープや段差・スラローム等のコースで、実際に電動車椅子に乗って操作を体験していただけます。専門の職員からもアドバイスを受けられるチャンスです！

今年度は、3月1日（火）、午後1時30分から開催します。電動車椅子の安全な利用のために、これから電動車椅子に乗ってみようとお考えの方や、その方を支援されている方など、是非ご参加ください！お待ちしております！！

実際に電動車椅子に乗ることができます！



※ 検温，マスク着用，換気，座席間隔の確保等の新型コロナウイルス感染症対策へのご協力をお願いします。

※ 2月8日（火）は，新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ，開催を中止しました。

※ 3月1日（火）についても，感染拡大防止の観点から開催が中止となる場合があります。

問合せ・申込先

京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課

電話：075-823-1666 FAX：075-842-1541

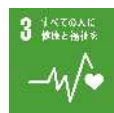
申し込み締切：開催日前日まで（定員に達し次第，締め切ります）



ホームページ



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



障害者支援施設

当施設では、高次脳機能障害の診断を受け、区役所等で障害福祉サービス(自立訓練 ※必要に応じ施設入所支援)の決定を受けた満18歳以上の方が、日常生活の自立や復学・就労等の社会復帰を目標に、日々リハビリに取り組まれています。

今号では、①高次脳機能障害及びその治療について説明し、②施設の訓練プログラム“グループ活動”について紹介します。

① -1 高次脳機能障害とは？

交通事故や脳の病気などで脳がダメージを受け、その後遺症として現れる障害です。様々な症状が起こるため、日常生活や社会生活への適応に困難が生じます。

① 主な原因

- ・ 脳外傷：事故，転落，転倒など
- ・ 脳血管障害：脳出血，脳梗塞，くも膜下出血など
- ・ その他：脳炎，脳腫瘍，低酸素脳症，もやもや病など
- ただし，次の2点が必要です。
 - ☑ 脳損傷の事実がある
 - ☑ MRI や CT，脳波で確認できるような，脳のダメージがある

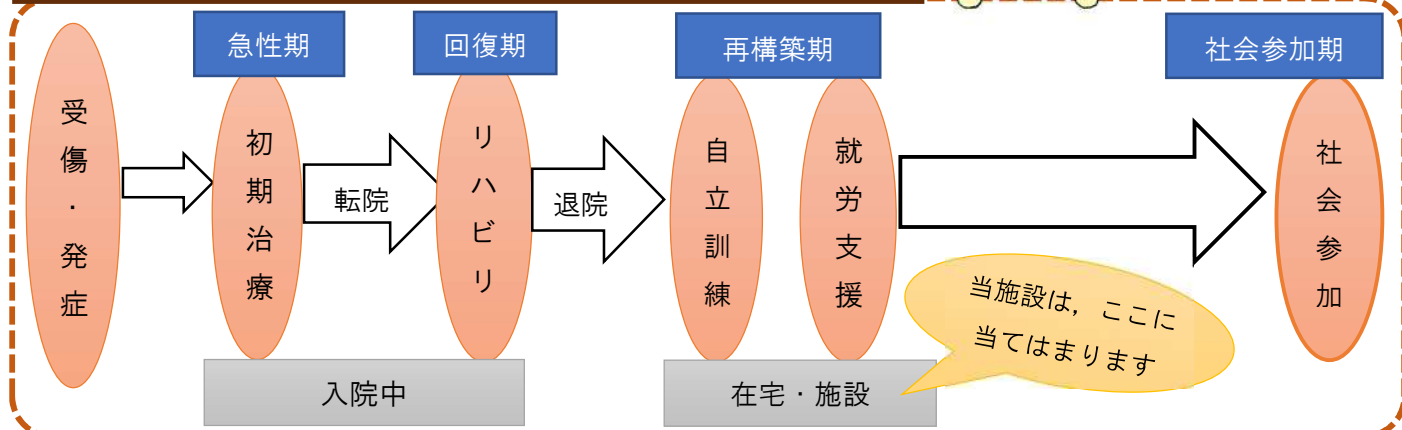
注意！)先天性疾患，周産期における脳損傷，発達障害，進行性疾患を原因とする場合は含みません。

② 症状

注意障害，記憶障害，遂行機能障害，社会的行動障害，失語，失行，失認など

- 脳損傷の部位や程度により，症状は異なります。
- 上記の症状がいくつか重なって生じることが多いです。
- これらの症状は，身体的な後遺症と違い，一見わかりにくいので，本人や周囲の人にとっても気づきにくく，理解されづらいという特徴があります。

① -2 高次脳機能障害の治療の流れ(イメージ)



② 訓練プログラム“グループ活動”の紹介



目的

言語能力や対人コミュニケーション能力(人の話をきく・理解する, 自分の意見や感想を述べる, 他者の反応を見る), 役割遂行力, 集中力, 注意・記憶機能などの向上。

内容

- ① 目標設定と確認
- ② 宿題発表
- ③ ゲーム (神経衰弱, カルタ, CD リスニング課題, 買い物ゲーム等)
- ④ 振り返り



進め方

- ① 小人数制
 - ・メンバー(利用者)間のコミュニケーションが取りやすいように, 2～5 名の小グループで実施。
 - ・スタッフは, 主に作業療法士と心理士が担当。
- ② クール制
 - ・1クール 3 か月, 最長 4 クールまで実施。
 - ・メンバーが当番制で司会を担当。司会者は開始前に進行内容をホワイトボードに記述し, 開始。
- ③ 目標と振り返り
 - ・各自クール毎に目標を立ててもらい, ゲームを実施。
 - ・毎回終わりに, スタッフと一緒に達成具合を振り返る。
 - ・2 クール目終了時に, 目標の達成具合をスタッフと相談し, 必要に応じて目標を再設定。
 - ・最終回にクール全体を振り返り, 達成できたことやできなかったことをスタッフと一緒に確認。
 - ・各自, できなかったことを振り返ることで, 障害の“気づき”に繋がっていきます。
- ④ 宿題
 - ・毎回, 各自, 新聞・テレビなどから, 興味のある話題について, 1 分程度で紹介する時間を設定。その際, 他のメンバーは, メモを取り, 感想を述べる時間とし, コミュニケーション能力の向上に繋がっていきます。
- ⑤ スタッフの役割
 - ・スタッフは, 各メンバーの記憶力・注意力など現状の能力の把握を行うとともに, 発動性の向上や抑制力等を確認しながら進め, 各メンバーの課題の把握・対応方法を検討していきます。
 - ・また, 訓練プログラムのスムーズな進行のため, 必要に応じて, 各メンバーに助言します。



練習ではうまく話せたのに, 本番では「言葉に詰まった」, 「読み飛ばした」, 「漢字の読み方を忘れた」など, 思うようにいかないことも。自分では『上手にまとめられた!』と思っていっても, 周りからはよくわからなかったと言われることも。職員が文章をまとめるコツや聴き取りのポイントをお伝えしたり, 感想を引き出すなど, メンバー間のコミュニケーションをお手伝いしています。 (スタッフより)

京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- 利用対象者: 18 歳以上で高次脳機能障害を有する方
- 利用定員: 入所又は通所での自立訓練(機能訓練 25 名, 生活訓練 15 名。うち施設入所支援 30 名。短期入所も行っていきます。)
- 利用期間: 個々の課題や目標に応じて, 機能訓練は最長 1 年 6 か月, 生活訓練は最長 2 年
- お問い合わせ: 京都市高次脳機能障害者支援センター
TEL075-823-1658 FAX075-842-1545



高次脳機能障害の支援には、医療、障害福祉、介護、就労、相談支援など、多種多様な機関が携わっています。これら関係機関どうしの連携を強化し、切れ目のない支援ネットワークの構築を目的として、京都府と京都市は、毎年、『京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議』を開催しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催を見送りましたが、今年度は10月29日（金）にウェブ会議システム（Zoom）を使って開催することができ、62名の支援者の皆様にご参加いただきました。

令和3年度

京都府高次脳機能障害(京都市域)支援ネットワーク会議 を開催しました！

会議の前半は、神奈川リハビリテーション病院の青木重陽医師より『医療から地域へ～神奈川リハビリテーション病院の取組から～』というテーマでご講演いただきました。青木先生からは、“包括的な神経心理学的リハビリテーション”の考え方や、ケースのフォーミュレーション（評価）の方法などを、事例を交えて分かりやすく解説いただきました。地域での安定した生活を支えるためには、障害に対する患者自身の気づきを高めることと（障害学習）、ストラテジー（工夫の方法）の獲得を大切にされているとお話がありました。



青木先生の講演の後には、当センター嘱託医の上田敬太医師と青木先生とで、質疑応答という名の対談を行いました。お二方とも経験豊かな先生だけに、実際の臨床場面に即したライブ感のあるお話や苦労話も飛び出し、とても興味深いものとなりました。

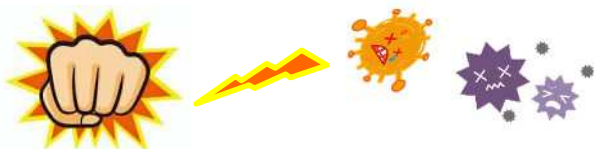


会議の後半は、Zoomのブレイクアウト機能を使って、オンライン上で参加者どうしのグループ交流を行いました。30分と短い時間でしたが、参加者からは「他機関と現状の困りごとを共有できてよかった。」「今後もこうした情報共有の場を作ってほしい。」との声が聴かれました。

これからも、皆様の明日の活力につながるような企画をお届けできるようがんばりますので、来年度も奮ってご参加ください！

★編集後記★

立春が過ぎ、ポカポカの春が待ち遠しいです。暖かくなったら、自由にお外に出られるようになることを願って、不自由な毎日ですが、みんなでもう少し頑張りましょう！



【リハ✿エール】第25号 令和4年2月発行
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町30番地

電話 075 (823) 1650 (代表)

Eメール rehabili@city.kyoto.lg.jp

京都市印刷物 第034987号